

## 第 期 渋谷川・古川流域連絡会議事録(第3回)

開催日時 平成19年12月12日(水) 14時30分～16時30分

開催場所 港区男女平等参画センター 4F 集会室3



### 議 事

平成19年12月12日(水)の14時30分から、港区男女平等参画センター4階集会室3において第 期第3回渋谷川・古川流域連絡会を開催しました。都民委員12名、行政委員11名が出席し、「古川の護岸整備について」、「古川の日常管理の状況について」等の議題に対して意見交換を行いました。

### 配布資料

- 資料1 議事次第
- 資料2 座席表
- 資料3 委員名簿
- 資料4 平成18年度流域連絡会議事要旨(第1回、2回)
- 資料5 古川の護岸整備状況
- 資料6 古川の日常管理の状況について

## 平成18年度流域連絡会の議事報告

第1回、2回の流域連絡会について、事務局より報告がありました。

### 古川の護岸整備について

古川の護岸整備について、事務局(一建)より説明がありました。護岸整備の進捗状況、今後の護岸整備の計画、古川における護岸の老朽化対策等の説明がありました。

#### 意見交換

(都民委員)進捗率が少し遅いように思います。いま技術的な話が出ましたが、予算の関係もあるのでしょうか、その辺を教えてください。

(事務局)予算もありますが、どちらかという技術的な問題があります。調節池整備前の現状では川幅を狭める将来計画が実施できないので、限られた工事可能な箇所で行える限り様々な空間的制約を解決しながら行っているためです。

### 古川の日常管理の状況について

古川の日常管理について、港区環境・街づくり支援部土木事業課より説明がありました。流路整正・河川清掃・しゅんせつ・ユスリカ幼虫駆除等の維持管理内容や、水質調査の観測場所・調査項目・調査結果等について説明がありました。

#### 意見交換

(都民委員)維持管理ということで流路整正を年に1回という事ですが、年に1回で維持できるのか、維持管理の予算的にはどのくらい考えているのですか。

(事務局)流路整正については、頻繁に大雨が降って増水があると逆に土砂量がなくなってしまうということがあります。通常は年に1回程度行っています。1回に700万から800万円くらい行政として使っております。それから河川清掃につきましては200万円くらいを毎回使用しております。維持管理事業につきましても概ね1回200万円くらい予算化しております。

・その他、都民委員より、大雨の直後に下水管から汚水が流入して、河川の水質が悪化するのを防止する合流改善等の下水道流出対策を知りたいとの意見がありました。

### その他

東京都建設局河川部より、渋谷川・古川河川整備計画(原案)の概要と策定スケジュール、古川地下調節池整備事業の概要についての説明がありました。

#### 意見交換

(都民委員)地下調節池案について、8メートルの径を抜くのも10メートルの径を抜くのも費用的に大きく変わらないですから、この際大きな径で抜いておいて、治水能力を強化し、その分、川は土の上を流れる「春の小川」を復活させてはどうですか。

(事務局)川底にシールドトンネルを抜く場合、川の投影面からはみ出さない径として、8メートル(内径7.5メートル)が決定されたもので、治水能力としても7.5メートルで充分です。

(都民委員)河道と調節池を合わせて50ミリ対策をするのではなく、トンネルを8メートルから10メートルの径にして洪水対策の全てを処理すれば、河川は土の上を流れる自然豊かで、周辺の都市施設の価値を高めるようなものに出来るのです。

(事務局)現在進めている1時間当たり50ミリ(以下50ミリ)対応の枠をはみ出すことができないので、委員が話されていることを実現化するには、将来、1時間当たり100ミリ(以下100ミリ)や75ミリ(以下75ミリ)の対応をするということが前提になると思います。仮に100ミリ対応の整備が可能となった場合、たとえば、最上流の渋谷から東京湾まで地下河川を整備することや調節池の増設などにより、現河道へ流れる流量を減らすことが可能となります。その時に合わせ、せせらぎを復活させるなど河川環境を向上させるような整備が可能となります。ただし、このようなレベルアップをさせる話について、渋谷川・古川だけ優先的に実施することはできません。東京都内を流れる中小河川のうち、50ミリ対応の整備を行う計画があるのは46河川、324kmありますが、現時点の整備率はまだ6割程度しかありません。そのため、その整備に優先順位をつけながらある一定の段階で少しずつ洪水対策の整備規模を上げているのが現状です。第一目標として50ミリ対応がどの位できているかということ、現時点では全体でまだ6割程度です。したがって、渋谷川に100ミリ対応を導入するなど、整備費用を特定の河川に集中させると、他の川の洪水対策が全くできないということになります。

(都民委員)大事なことは渋谷川を本当に良い川にする為にどういう形で考えていけばいいのか、一旦造ったものの後戻りはあり得ません。コンクリートの三面張りのような川は、治水機能しか見ずにやってきたがそれはやむを得ずの結果であり、決して望ましいものではない。この機会を逸すると、今後数百年にわたって後悔することになります。計画を見直すべきと考えます。

(都民委員)川というのは治水だけでなく、平常時に水が流れて皆が集い、そこから水生生物があり、そして植物があり木が生えているというのが川なのです。そういう川に戻して、大水のときも地下河川がきちんと機能して、大丈夫だという川を目指すべきです。

(事務局)河川法により河川整備基本方針というものを策定するのですが、その降雨規模については100ミリ対応を想定しています。繰り返しになるかと思いますが、将来その方針の水準に基づいた整備によって、現在の河道の負担が大幅に軽減されるような場合、地上部分における河川環境を向上させる整備についても色々な造り方ができます。

(都民委員)いま、地上部分の整備を行ってしまえば、将来計画の75ミリとか100ミリ対応の布石になるはず。

(事務局)一番上流端であります宮益橋の所ですと、50ミリ対応の計画の中では毎秒約100トン( $m^3/秒$ )の水が流れます。将来計画の100ミリ対応の場合、集まる水量は毎秒約170トンになります。50ミリ対応の整備の中で、委員のお話を実現化しようとする、現在の渋谷川断面を蓋かけ二層化し、その下層部分に毎秒約170トンもの水量

を流し、上層部分の緑化、親水化を図ることとなります。しかし、下層部分の断面が全く足りないため、護岸を今より1 m以上かさ上げする必要があります。その場合、蓋掛け部分が周辺地盤より突出した形になり、本来の親水化とかけ離れたものとなってしまいます。

渋谷駅（渋谷川沿い）周辺の街づくりについて、渋谷区の都民委員 A 氏より構想について説明がありました。どのような方向で渋谷駅周辺の街づくりが議論されているかについて説明がありました。

#### 意見交換

（都民委員）アンケートを取られたと言いますが渋谷への来街者（渋谷の街に外から訪れる人）のアンケートをどういう形で取られたのですか。

（都民委員 A 氏）基本的には定点観測ですからビルの前を通行する人とか、渋谷駅中心に10カ所ぐらいポイントをおいて行いました。通行するのはほとんどが外からの人です。普通は都内の人が多くて、週末になると都外の人が増えます。

（都民委員）どういう項目でアンケートを取ったのですか。

（都民委員 A 氏）項目は渋谷の地域、街づくりにどういうものを求めますか、この街にどういうものがあつた方がいいですか、といった項目です。

次に、渋谷ユネスコ協会の市民活動について、渋谷区の都民委員 B 氏より説明がありました。ユネスコ協会を設立した主旨、その主旨を実現するために実際に行っている活動内容、文化の保存という観点から見た渋谷川の探訪等について説明がありました。

終わりに、次回の連絡会について、事務局より案内がありました。

（事務局）次の流域連絡会では渋谷駅前の河川整備についてもう少し詳しい内容を話題提供できるかと考えております。この流域連絡会で皆さんから頂いた意見、それから事務局として出来る事、そこを街づくり部会に意見として述べて行くという事になると思います。